

## 「後悔について」

群馬県 青木大志

人間は、行動した結果の後悔よりも、行動しなかったという後悔のほうが強く残るとい  
う。私自身がまさにそうだ。目の前の面倒臭さから逃げて、気付いたら余計に面倒臭いこ  
とになっている。

勉強しなかったせいで考査の点数が見るも無残な結果になったり、後片付けを怠ったた  
めに部屋の大掃除をする羽目になったり……というものもあるが、特に人間関係においての  
それは、後々までとても大きな影響をおよぼすことも多い。

話し合いの場で自分の意見を言うこともできずにその場の流れに便乗して、気付いたら  
議論の方向は自分の望まないものになっていたり、「相手からしたら迷惑なんじゃないか」  
とか思って初対面の人に話しかけられずにいることなど。後から思い出すと我ながらくだ  
らない「世間体」で、自身に対する風当たりを無意識のうちに避けているように思う。

そして一人「あの時一言発言できれば……」などとみみっちい後悔をすることが度々あ  
る。

考えてみればこの人間関係においての「行動」も、冒頭にあげた部屋掃除のことも、根  
本的には同じようなものだ。

行動を起こす前は面倒に思う部屋掃除も、始めてしまえば思ったよりも苦痛なものでは  
ないし、片付けをしてゆくうちに捜していたものを発見することもある。そして掃除が終  
わればそこそこ清々しい気持ちになるし、当然後悔することもない。人間関係においても、  
これくらいの気持ちで行動すればよいのだ。

そんなことを考えながら、私は今日も尻込みと後悔をくり返す。